

# 各部会の現況について

---



# 1. 船員部会の現況

---



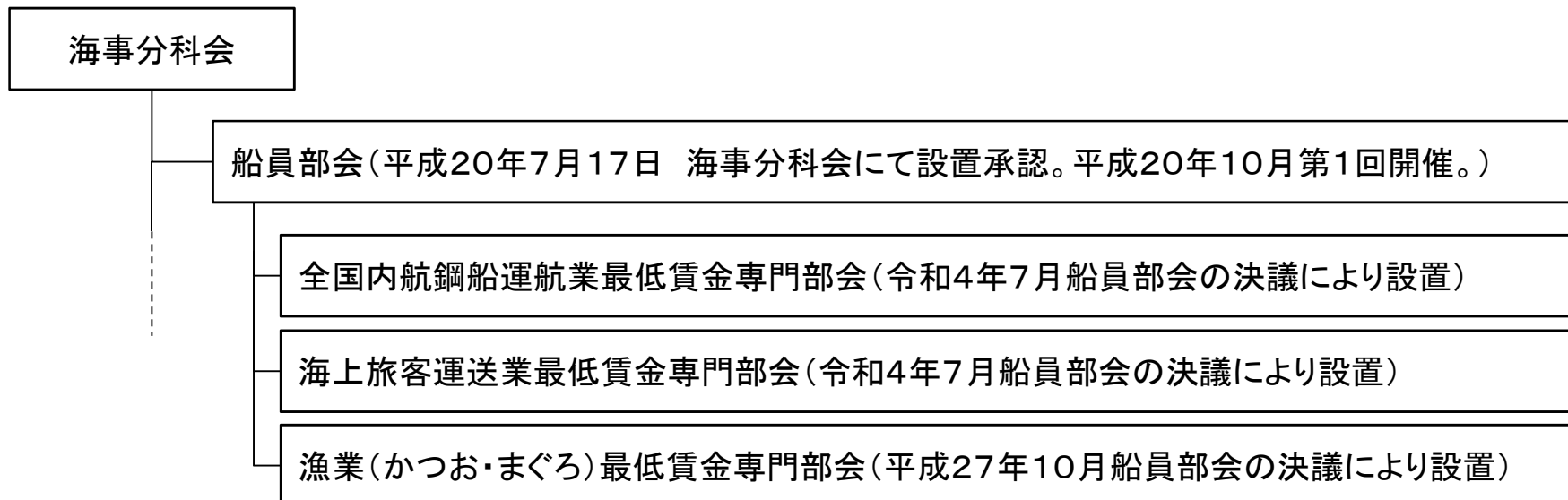
## 概要

交通政策審議会海事分科会船員部会は、船員中央労働委員会の廃止(平成20年9月)により、当該委員会が担っていた調査審議機能を引き継ぐとともに、船員政策に係る重要事項に関する調査審議を行う機関として設置

審議事項: ①船員法、船員職業安定法等船員関係法令に基づく調査審議事項  
②船員政策に係る重要事項

体制: 公益代表8名、労働者及び使用者の代表各5名 (計 18名)

## 船員部会及び最低賃金専門部会



# 船員部会の現況①

## 1. 法令に基づく調査審議事項

### (1) 船員関係法令の改正

船員法施行規則の一部を改正する省令案

【根拠：船員法】

船員に関する育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う  
労働者の福祉に関する法律施行規則の一部を改正する省令案

【根拠：育児・介護休業法】

子の養育又は家族の介護を行い、又は行うこととなる  
船員の職業生活と家庭生活との両立が図られるようにするために  
事業主が講ずべき措置等に関する指針の一部を改正する告示案

【根拠：育児・介護休業法】

### (2) 船員の最低賃金額の見直し

業種毎に設定されている特定最低賃金額のうち、次の業種に関する見直し

【根拠：最低賃金法】

内航鋼船運航業 (最低賃金専門部会：① R4. 9. 2、② R4. 10. 4)

海上旅客運送業 (最低賃金専門部会：① R4. 9. 2、② R4. 10. 6)

漁業(かつお・まぐろ) (最低賃金専門部会：① R4. 8. 24)

### (3) 事業の許可

事業者としての適正を審議

【根拠：船員職業安定法】

船員派遣事業の許可 (8事業者)

### (4) 船員の災害防止計画の策定

5年毎に作成する船員災害の減少目標その他船員災害の防止に関する基本計画について審議

【根拠：船員災害防止活動の促進に関する法律】

## 船員部会の現況②

### 2. 報告事項

- |  |
|--|
| (1) 令和5年度海事関係予算等<br>船員関係を中心に海事関係予算等について                |
| (2) 船員教育機関の卒業者の求人・就職状況等<br>船員教育機関の学生の卒業後の進路状況等について     |
| (3) 船員労働安全衛生月間の実施概要<br>令和4年9月に実施された船員労働安全衛生月間の活動概要について |
| (4) 知床遊覧船事故<br>知床遊覧船事故対策検討委員会の取りまとめ等について               |
| (5) ILO海上労働条約(MLC)の規範改正                                |

## 2. 船舶交通安全部会の現況

---

## ■ 船舶交通安全部会（平成25年10月2日設置）

- 海難発生状況等を踏まえ、船舶交通安全に関する重要事項を調査審議することを目的に設置。

審議事項：①海難状況の調査

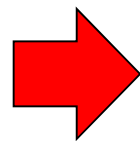
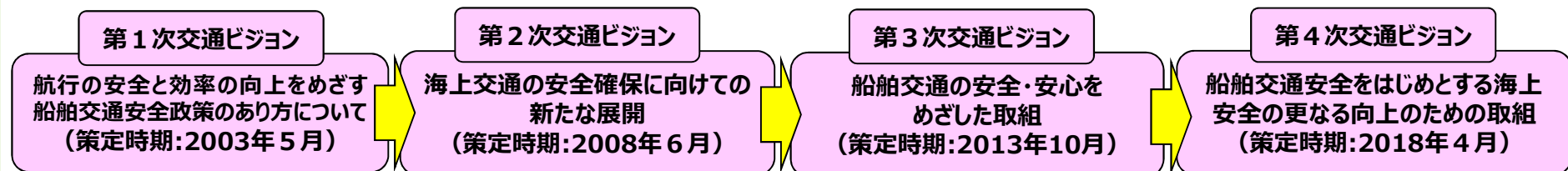
②船舶交通安全政策の中長期的な計画の策定及び検証

③その他船舶交通安全に関する重要事項の検討

委員構成：学識経験者、海事関係団体（外航、内航、フェリー、水産、海難防止、船長、船員、水先等）

## ■ 交通ビジョン

- 交通ビジョンは、海上交通安全行政が果たすべき役割と方向性及びそのための手法を提示するもの。
- 5年を目途に、それまでの安全対策の評価、航行環境の変化等を踏まえ策定。



令和4年度で第4次交通ビジョンの期間が終了するため、新たな交通ビジョン（第5次交通ビジョン）の策定に向けて船舶交通安全部会でご審議を頂いているところ

## ■ 令和4年5月27日 諮問

### 諮問第408号

#### 新たな時代における船舶交通をはじめとする海上の安全のための取組について

#### 諮問理由

我が国周辺海域では、様々な安全対策を講じてきたが、依然、海難により貴重な人命、財産が失われている。年々、海上荷動き量は増加の一途を辿り、船舶の大型化も進んでいる。近年は台風等の自然災害が激甚化、頻発化し、さらに南海トラフ地震等の巨大地震の発生リスクも高まる状況下、ひとたび大規模海難が発生すれば甚大な影響が生ずるおそれもある。

一方、新型コロナウイルス感染症の流行後、マリンレジャーが活発化、多様化する中で、その安全な利用も改めて課題となっている。

また、船舶交通をめぐる環境は、地球温暖化対策として水素などの次世代エネルギーの船舶燃料への活用、洋上風力等の再生可能エネルギーの利用の促進や、自動運航船の実用化に向けた取組も進展が図られ、一層の多様化が進んでいる。

このような中、AIや5G通信など技術革新は着実に進展している。社会全体として、生産性、利便性の向上や経費削減がさらに指向され、次世代AIS（VDES）等の新技術の海上交通センター業務への活用や、XR（仮想空間表現技術）等の新技術の導入による航路標識の維持、管理の省力化も期待される。また、少子高齢化が進行する中、人材の確保や育成が大きな課題となっている。

このように様々な環境の変化の中、新たな時代の要請に的確に応えていくため、船舶交通の安全をはじめとする海上の安全のための取組を深化させる必要があることから、今後、取るべき政策の方向性及び具体的施策について、本審議会の御意見を賜りたく、諮問するものである。

## ■ 船舶交通安全部会における審議状況

### ● 令和4年8月3日 第19回船舶交通安全部会

#### 【議題】

- (1) 第4次交通ビジョンの総括
- (2) 第5次交通ビジョンにおける施策等の方向性

### ● 令和4年12月7日 第20回船舶交通安全部会

#### 【議題】 答申（案）について

### ● 令和5年2月予定 第21回船舶交通安全部会

#### 【議題】 答申（案）について



(第19回船舶交通安全部会の状況)